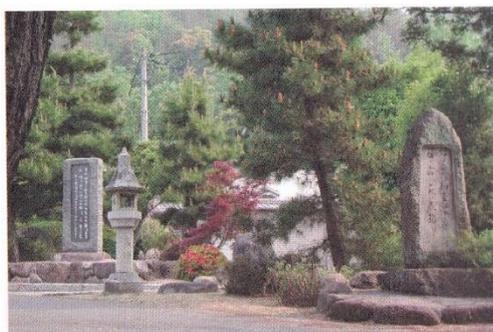


茶山ゆかりの
寺院と詩碑



茶山詩碑と歌碑



本堂

備後国分寺

菅茶山と国分寺について

天明四年（一七八四）三月二十日、茶山三七歳は、西山拙齊・

弟耻庵（前年拙齊の欽塾入門）と国分寺に如實上人を訪ね、後述の聯句を詠んでいる。この頃から、如實上人のひととなり、それに御領山麓というロケーションもあって、しばしば国分寺を訪れたものと考えられる。

茶山著「福山志料」から抜粋（仮名句点は現代読みに変換）

唐尾山 真言宗 年代久しく興廃小地。今明王院の末寺

（中略）延宝癸丑の洪水に流れ、草堂わずか一字のこれり。

今按に方丈、二王門 先住如實上人これを建て、少しく寺刹のかたち成りといえども、昔の二十分の一にもならず。（中略）如實は紀州の産 和歌を好み花草を愛して無欲なる僧なと云句あり、其人想ふべし。

宇（う）屋根・家屋。 按に（あんずるに） 考えてみるに。

所蔵品

① 「茶山書屏風」

大森、小西看花、茗水即事、綾瀬舟遊即事（一〜三）

② 「茶山書軸」（自墨書・国分寺へ寄贈）

「是れ如實上人に呈す聯句 事四十年前に在り今此
を書し愴然 文政辛巳（四年）仲冬 菅晋帥 再行」

*聯句を詠んだ西山拙齊歿後二三年、如實上人歿後十六年、茶山歿前六年のことであった。

福山市神辺町下御領

詩碑

門前に茶山詩碑二基（下記）がある。歌碑は昭和六一年（一九八六）詩碑は、平成十六年（二〇〇四）、有志によつて建立された。背面に、この年の「茶山ボエム絵画展」詩題「花と和尚さん」（現代語訳詩）が刻まれている。

① 聯句 贈如實上人 西山拙齊・菅茶山

（前編巻二）「茶山詩話」第二集

上人好事為花顛 上人好事花の為に顛す

上人は好事家で花のためには逆立ちしても惜しくない

唯愛名花不愛錢 唯名花を愛して錢を愛せず 拙齋

ただ立派な花を愛して、錢には愛着がない

為是年年購奇種 是年々奇種を購うが為に

だから、毎年花の奇種を購入するために

下山時乞衆生縁 山を下りて時に乞う衆生の縁 晋帥

山を下りて（里へ出て）、衆生に時々、錢を乞われる

是れ如實上人に呈す聯句 事四十年前に在り

今是を書し愴然 文政辛巳仲冬 菅晋帥再行

② 和歌 菅茶山

如實上人を訪ひ侍りし時、庭の花草盛りなりしかば

「訪ひ寄れば 袖も色濃く なりにけり

籬（まがき）の露の 萩の花摺り」

（大意）

如實上人を訪ね国分寺に立ち寄れば、着物の袖が色濃くなるくらい草花は真つ盛り。

萩の花が映り込んだ垣根の露で着物を染めてしま

いそうだ。

参考資料

「菅茶山頭彰会会報」第四号 第十五号 第二五号